

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	セーフ南阿佐ヶ谷		
○保護者評価実施期間	2/25/2026		3/11/2026
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38 (回答者数)	31
○従業者評価実施期間	2/25/2026		3/11/2026
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9 (パート・アルバイトは未回答の項目あり)
○事業者向け自己評価表作成日	3/21/2026		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者が見通しを持って安心して活動に参加できるように、視覚的なスケジュール提示を行い、活動の切り替えを円滑にしている。	療育内容を事前に計画し、おやつや帰りの時間等の日課を明確化している。あわせて、ホワイトボード等を活用し一日の流れを可視化することで、利用者の理解を促している。	療育後の振り返りを継続するとともに、月2回の勉強会を通じて支援内容の検討・改善を行う。今後は利用者の特性に応じた視覚支援の個別最適化を図る。
2	各種研修への参加を通じて療育の質の向上を図るとともに、法令遵守に対する職員の意識向上のための人材育成に力を入れている。	外部研修への参加機会を確保し、特に虐待防止および身体拘束適正化については、2か月に1回の連絡会議を実施し、継続的な確認と意識づけを行っている。 支援者の共通理解、共通認識のもと療育の質の向上を目指している。	研修受講者による内容共有の仕組みを整備し、職員全体への知識の向上を図ることで、事業所全体の療育の内容を向上できるよう取り組んでいる。
3	より具体的なアセスメントに基づき、利用者および保護者のニーズを踏まえた個別支援計画を作成し、成長を促す支援を実施している。	定期的な保護者面談に加え、SNSや電話等を活用し、日常的な情報共有と相談対応を行っている。また、必要に応じて再アセスメントを実施し、支援内容の見直しを行っている。	相談しやすい体制を維持しつつ、支援内容や事業所内の様子の見える化をさらに推進する。あわせて、保護者が相談しやすい環境づくりを提供する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携が限定的であり、学校や学童等との交流の機会が少なく、情報交換の機会が持てていない。	商店街の行事等には参加しているものの、学校や学童、児童館等との継続的な関係構築には至っていない。情報交流の必要性を感じているものの、そのことについて話し合う機会が持てていない。	各機関の負担にならない形での情報共有や連携方法を模索し、段階的に関係構築を進める。必要に応じて、短時間・小規模な交流機会の設定を検討する。
2	各種マニュアルや災害時対応に関する情報が、保護者に十分に周知されていない。	SNSや療育支援システムを活用しているものの、情報発信の方法が限定的であり、保護者への周知が十分に行き届いていない。	SNS等の活用方法を見直すとともに、必要に応じて紙媒体を併用し、保護者にとって分かりやすい形で情報提供を行う。

3	保護者同士の交流機会が少ない。	保護者が参加できるイベント等の実施が十分ではなく、交流の場が設定できていない。	共働き世帯等の状況を踏まえ、参加しやすい時間帯や形式（短時間・オンライン等）を検討し、無理のない形で交流機会を創出する。
---	-----------------	---	--